裁判員等経験者との意見交換会（令和6年6月17日開催）

裁判員制度

Aさん

・審理と評議の間隔について、審理は事実を受け止める時間がほしいため、間隔がほしいが、評議は間が空くと考えすぎるため、間隔が詰まっている方がよいと思った。
・色々な世代が、それぞれの生き方や価値観を出し合ってやるのが裁判員制度だと思うので、自分の未来のためにも今までの知識経験を生かして積極的に参加してほしい。

Bさん

・裁判員制度は年配の人が多いと思っていたが、若い人が多かったのが印象的だった。
・周囲には精神的に大変な面はあるが、参加した方がよいと伝えた。
・若い方へは、法律を知ることはとても大事であることを伝えたい。

Cさん

・当事者の話を聞いた上でさらに直接質問ができて非常に充実したものであった。法廷や裁判所に対する見方が１８０度変わった気がした。
・色々な知識（法、団体、医療機関、役所）を得ることができ、そしてそれを周囲にアドバイスすることが可能となり、経験として非常に良かった。

Dさん

・仕事は自分が抜けても支障がない時期でもあり、会社からは快く送り出してもらった。
・裁判員に選ばれたことについて、周囲の人は驚き、自分も参加したいという人が多かった。裁判員を経験した人は社会全体からすると少ないため、経験を伝えていくことは大切だと思う。

Eさん

・裁判の約１か月間、色々勉強しながら判決を迎えたが、人の人生を決める刑を自分が決めてよかったのかと思った。現在も被告人がどうしているのか、本当にこれでよかったのか気になっている。
・傍聴席に自由に入れることを初めて知った。傍聴できることをもっと知ってもらえれば裁判員裁判への興味に繋がるのではないか。

司会裁判官からひとこと

今回は、裁判員等を経験したことで、裁判や司法に対する印象や考え方が変わったかどうかや、御経験を周りの方に伝えていただけたか、今後も裁判員制度を継続していくために、どのような広報や周知をしていくべきか等について、有意義な御感想や御意見をいただきました。今後も、参加して良かったと感じていただけるような裁判運営を心掛けると共に、国民の皆様に制度をより一層身近に感じていただくための取組に努めて参りたいと思います。

ご参加の皆さま、ありがとうございました。